

---

< 参 考 資 料 >

## 陸側遮水壁における補助工法の実施内容について

2016年9月15日

**TEPCO**

---

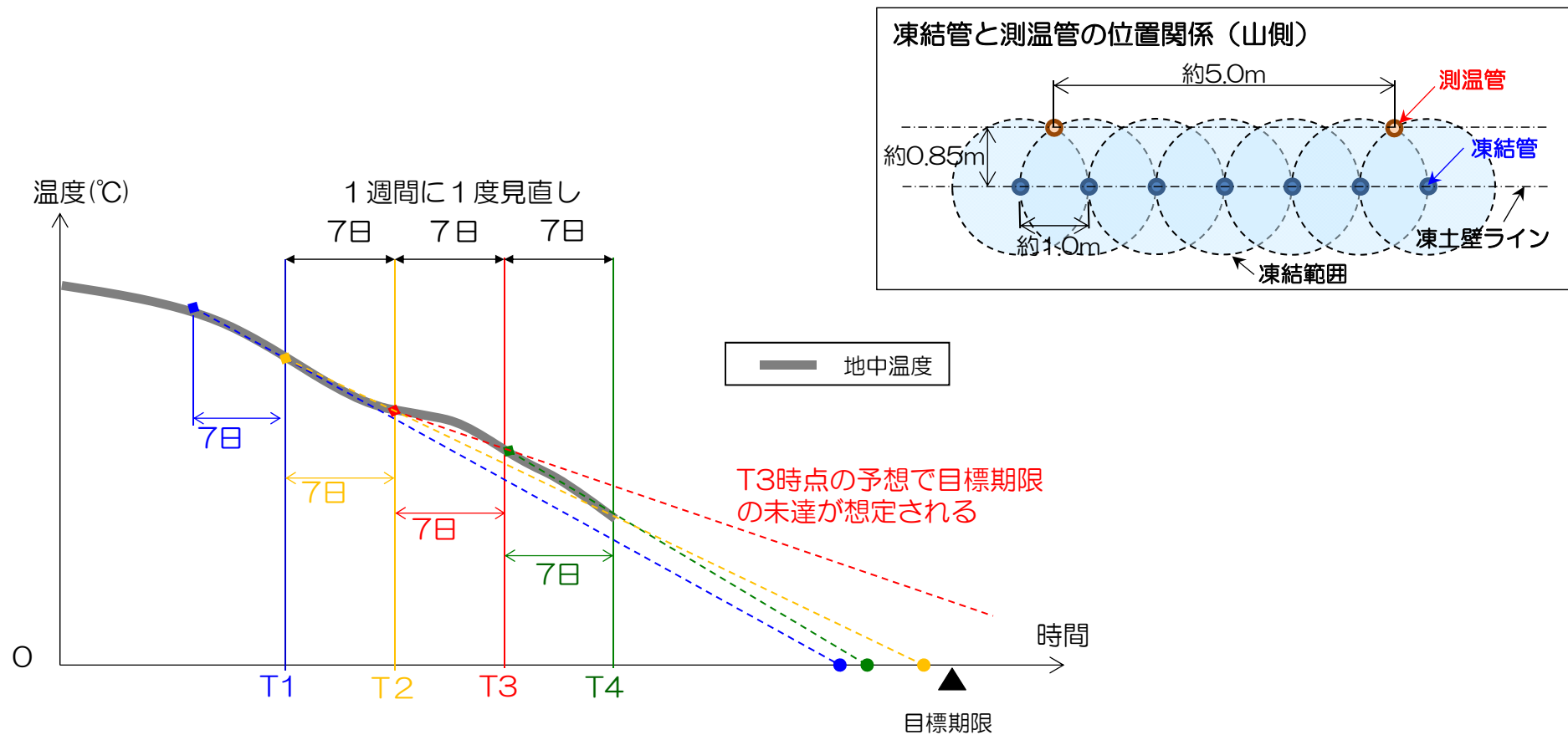
東京電力ホールディングス株式会社

**TEPCO**

---

## 1. 補助工法の実施箇所選定の考え方

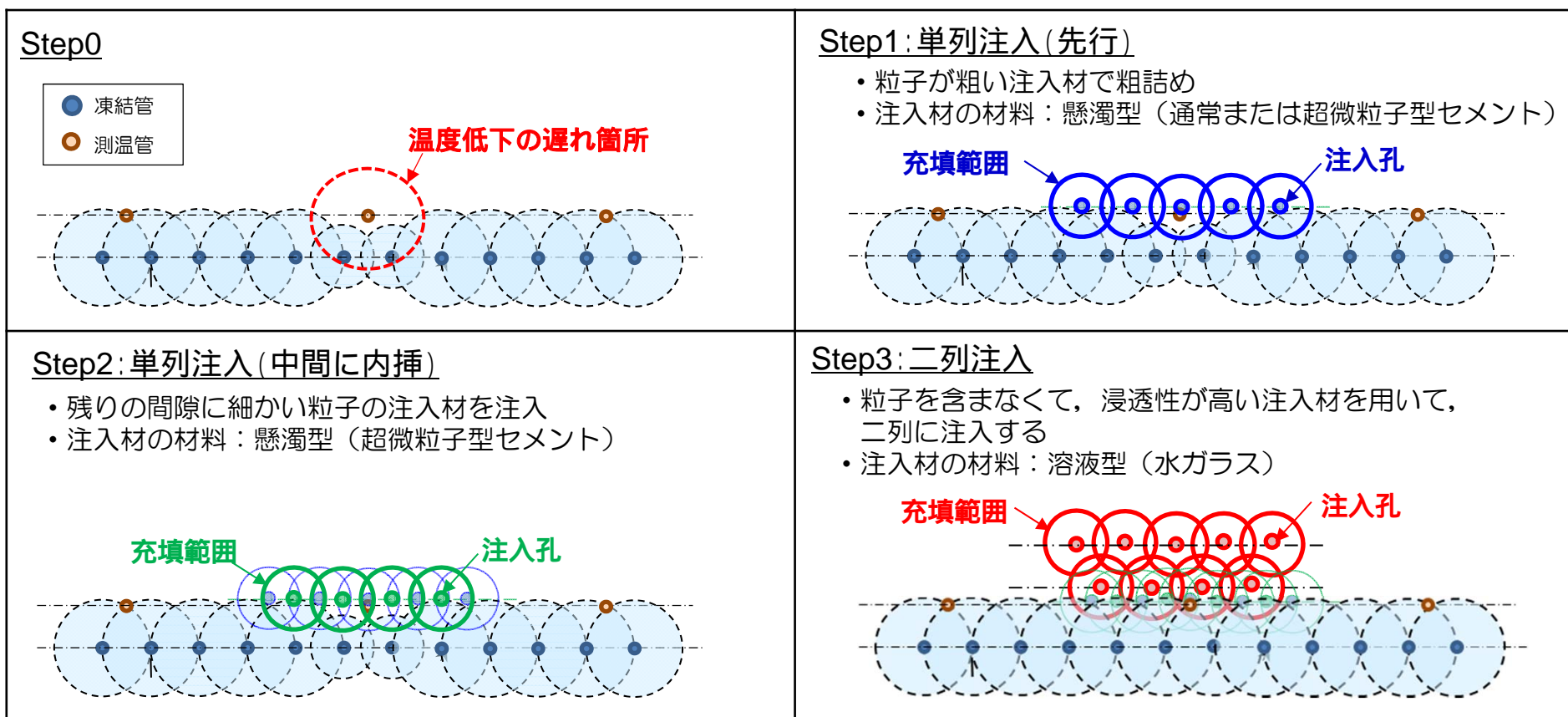
- 凍土壁ラインから約85cm離れた位置に設置（約5m間隔）した各測温管の地中温度の経時変化から、直前7日間の温度低下勾配を外挿して0℃未滿に達する時期を予測し、目標期限より遅れが想定される箇所に対して、補助工法を実施する。
- 上記の予測を、1週間に1回の頻度で実施し、計画に反映する。



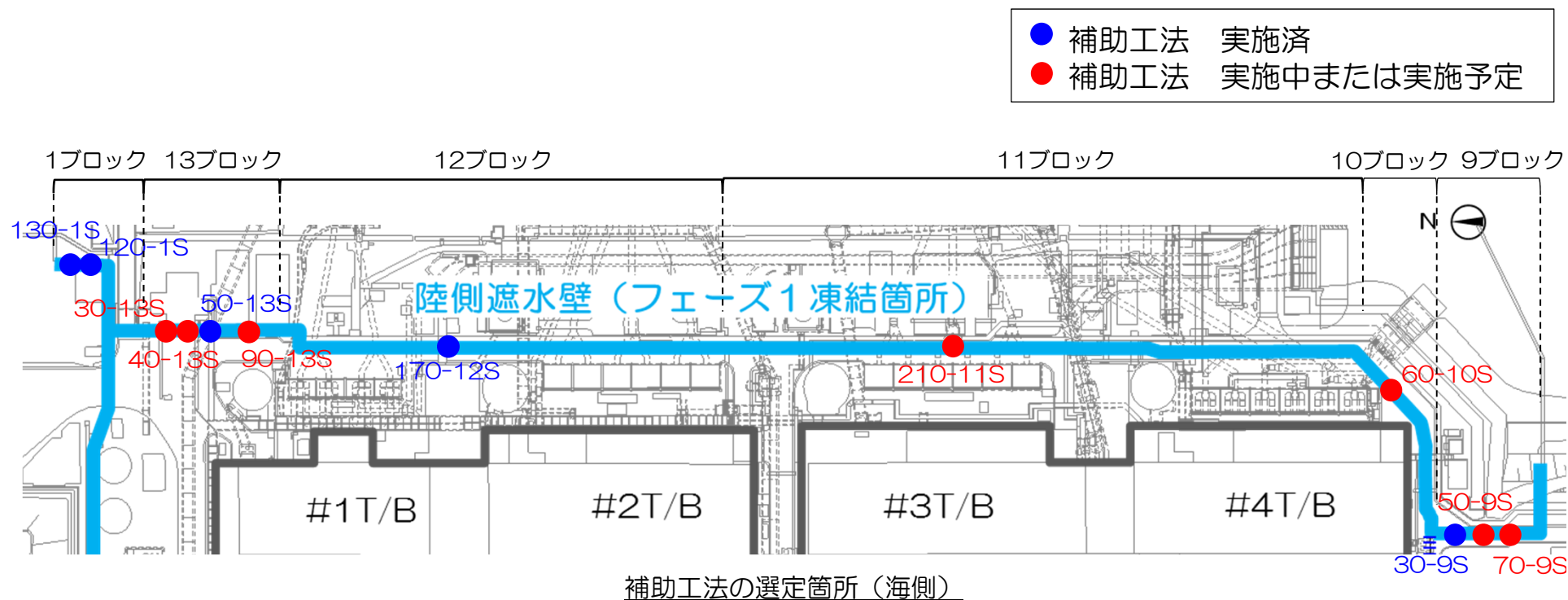
## 2. 補助工法の実施内容

- 一般社団法人日本グラウト協会によると、大きな間隙が存在する時の注入は、「この部分をまず粗詰めし、その後、礫や玉石の間隙を埋める砂に浸透注入を行う2段階の注入が必要」※としており、補助工法については、周辺のサブドレン等の設備への影響も考慮して以下のようなステップで実施している。
- なお、地盤の間隙、温度低下、周辺設備等の状況に応じて、Step 3 から実施する場合もある。
- 表層については、圧力をかけて地盤中に注入できないことから、注入以外の対策を実施する。

※ 出典 「新訂 正しい薬液注入工法 -この一冊ですべてがわかる-」 一般社団法人日本グラウト協会編



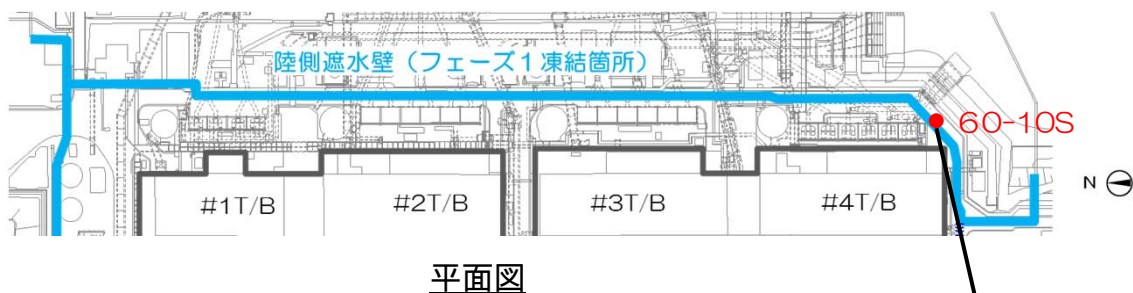
### 3. 補助工法の選定箇所 (2016年9月15日時点)



- 海側における補助工法の選定箇所は、上図のとおり。
- 1ブロックと12ブロックについては、補助工法によって0℃未満を達成した。
- 9ブロックと13ブロックのうち当初から補助工法を実施していた箇所の施工は、9月中旬で完了予定。
- 8月中旬以降の台風による降雨の影響を受けた9ブロックおよび11ブロックのそれぞれ1箇所(50-9S、210-11S)と、温度低下が停滞した10ブロックの1箇所(60-10S)で箇所について補助工法を実施するが、9月下旬までに完了する予定。

## 4. 従前の予測に対し、温度低下が停滞した箇所

従前の予測では比較的早期に凍結すると予測していたものの温度低下が停滞した箇所についても補助工法を実施する。



(データは9/13 7時時点)

